



平成28年3月1日現在

総世帯数	7,279世帯
総人口	16,814人
男	8,367人
女	8,447人

2月28日芳川地区地域防災力強化支援事業として、松本市危機管理部危機管理課主催の「避難所開設・運営」訓練が行われました。

芳川地区8町会の町会長、防災部の約60名の参加者でした。

20年前の阪神・淡路大震災、又、5年前に発生した東日本大震災でも、住民が避難生活を余儀なくさせられたのは、記憶に新しいところです。

平時では必要ない事ですが、災害時に避難所を、どのように運営するかの訓練でした。

避難所開設・運営訓練が行われました。



報告編

最初に芳川公民館会議室でアドバイザーにより講義で「避難所の定義」「避難所の開設・運営の流れ」「避難所に必要な施設及び避難者収容の考え方」「避難所におけるルール」「避難所運営組織と機能について」を授けて、各活動班にグループ分けし、体育館に移動し実務訓練に移りました。



運営・設置・情報収集・物資施設・衛生・調達配布・医療介護・ボランティア受入れ等、避難生活で必要となる事柄について訓練し、最後班長を囲んで課題、検討をし終了しました。

まとめで避難所運営は女性の役割が大切と、コメントがありました。また、まさにその通りと実感した一日でした。



こころ満たされた人権ふれあいコンサート

報告編

2月24日(水)午後1時30分から芳川公民館の大会議室で、「NPO法人ケ・セラ」による人権コンサートが行われました。

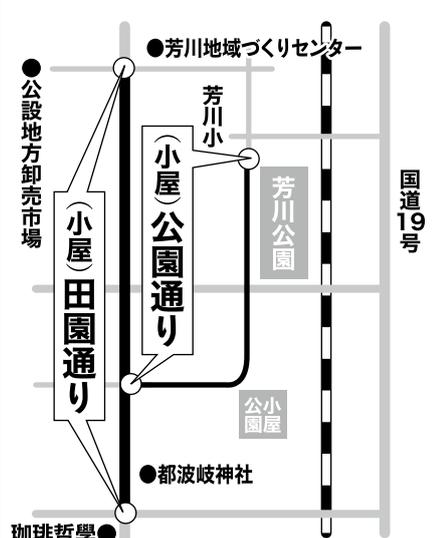
楽器、歌に司会と、それぞれがアドリブやジョークをまじえた、ゆとりのある演奏で参加者を楽しませ、アンコールにもこたえていただきました。

「ケ・セラ」は15年前、芳川公民館で結成され、最初5名だったメンバーは現在14名となつて新しくできた南松本のB型事業所で練習しています。音楽を仕事としている協同作業所は、全国で北九州の「ジョイクラブ」と「ケ・セラ」の二ヶ所です。

代表の中西博さんは、この15年間は子育てと同じで、泣いたり笑ったりしながらも、会員の成長を楽しみにしていた日々だったと話していました。



小屋町 街路名愛称決定!



たくさんのご提案ありがとうございました。

安心・安全な地域づくりを願う...

野溝消防組が創立100周年を迎え、野溝町防災会創立30周年記念式典が、2月28日に野溝公民館に開催されました。を招いて、盛大に開催されました。

松本市消防団第15分団第2部の、前身にあたる野溝消防組は、大正4(一九一五年)11月に公設されました。町村制の施行により、明治22(一八八九年)4月に誕生した芳川村では、村井町が明治27(一九〇四年)12月に、いち早く設立しています。村井町は明治20(一八八七年)、27(一九〇四年)、大正5(一九一六年)年の3回の大火でほとんどが類焼しています。そのような関係で、消防組の設立は切実な願いだったものと思われれます。



野溝消防組創立100周年及び野溝町防災会創立30周年記念式典



小屋第二公民館が完成しました。



12月10日、小屋第二公民館の工事が完了し、引き渡しが行われました。災害時の避難所機能を兼ね備えた、バリアフリーの新しい公民館は、ホール・和室・洋室・調理室があり、幅広い世代の交流の場となります。3月12日には竣工式が行われ、地域の方々への内覧会後、4月から利用開始となります。



おいしくできましたよ

芳川公民館と、芳川保育ゆりかご会主催の食育学級に、10組の親子の参加があり、五平餅づくりを行いました。炊き上がったお米を親子で仲良く八割ほどつぶし、小判型に形を整え、両面をこんがり焼き、く



ピーナッツで作ったたれをつけ、おいしくいただきました。子どもも口のまわりにたれをつけながらかぶりつき、おかあさんも初めて作った五平餅の味に大満足。参加者同士、和気あいあいと、楽しいひとときを過ごしました。

芳川の今昔物語

第17話



その昔... 小屋集落の北にあった稲荷社。古老の話では、縁日には村井町の芸者衆もお詣りにきて、賑やかだったと云う。



▲昭和50年代頃撮影か?

現在... ビニールハウスの辺りにあったと思われる。右手の青い屋根がやまびこ保育園で、その南隣に移転して、慶師地蔵尊として祀られている。



▲撮影H28,3,1

たちばなし

日に日に朝日の昇る時刻が早くなりまし。すっかり春の陽気になり、また田んぼや畑作りの季節がやってきます。

今、芳川地区には田畑を作っている方が、どのくらいいらっしゃるのでしょうか。現在、七千三百近くの世帯数。このうち田畑を持っている方が、耕作をしている方はどのくらいなのでしょう。おそらく数百戸、全世帯の数パーセントではないでしょうか。

私の子ども頃の頃、芳川はなかなか農村地帯でした。だんだんと時代が変わり、芳川地区は松本市南部の、大きな商業・工業・住宅地帯へと移り変わりました。私の近所にも新しい住宅がどんどんと建ちました。時代の流れにあらがうことはできません。平成の今の芳川の発展を願うばかりです。とはいえ四ヶ堰は現在もとうとうと流れています。芳川地区の田んぼを潤している流れを、大切にしていかなければと思うこの頃です。

自宅の前の畑でささやかに野菜を作っている自分ですが、今年も少しづつながら、手をかけていこうと思っています。